

『下に根を、上に実を』(イザヤ書 37 章 30-32 節) 2023.1.15.

<はじめに> コロナ禍も、私の王子での奉仕も 3 年目です。当初は緊張感をもって、日々対処に追われていたものも、3 年ほど経過すると慣れて来て、それが当たり前になりがちです。しかし、主はどう見ておられ、何をなさろうとしておられるのでしょうか。私たちは主の指針に注目しましょう。

I 四面楚歌の中で(36-37 章、II 列王 18-19 章)

①包囲されたエルサレム

ユダ王国ヒゼキヤ王の第 14 年に、当時の世界を席卷するアッシリア帝国センナケリブ王がユダの町々を攻略し、ついに都エルサレムを包囲しました。将軍ラブ・シャケはエルサレムとヒゼキヤ王に降伏を迫りました。

②浴びせられた暴言

ラブシャケはヘブル語で交渉役と民に「ヒゼキヤにごまかされるな」と叫びます。諸国の神々がアッシリアの前に屈したにもかかわらず、ヒゼキヤ王は「主が必ずわれわれを救い出してください」と言っていることに、真っ向から批判し、民の心をくじこうとしました。

③祈る者へのしるし

交渉役からラブ・シャケのことばを聞いてヒゼキヤ王は、預言者イザヤに祈りを求めます。イザヤから「あのことばを恐れるな。わたしは彼を剣で倒す」と手紙で励ましを受け、ヒゼキヤも「主よ。救ってください」(16-20)と祈ったとき、主から示されたしるしが 30-32 節です。

II あなたへのしるし(30-32)

①今年、二年目、三年目(30)

戦乱で畑は荒らされ、農作が妨げられた状況も、次第に回復される絵です。単に戦争と混乱が収まるだけでなく、地道な生活が取り戻されて行くと主は語られます。窮乏の中を落ち穂で生かしてくださいと主は、やがて勤労の実をもって生かしてくださいと言われます。

②種蒔く人に与える方(II コリント 9:10)

窮乏の中で種蒔を次の年のために残すことは楽ではありません。「種蒔く人に種と食べるためのパンを与えてくださる方は、あなたがたの種を備え、増やし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます」と約束されます。自分に与えられた種・パンとは何でしょうか。

③逃れの者、残りの者(31-32)

戦火から逃れて耐え忍び、生き抜いた人たちが、国を再興する絵です。困難・試練には往々にして主からの厳しいさばきのメッセージが込められています。しかし、主は滅ぼし尽くされず、あわれみをもって生かし、回復させてくださる赦しと救いの神です。

III 私たちへのメッセージ(30-32)

①生かされている

私たちは厳しい時代の中に投げ込まれています。しかし、主は滅ぼそうとされているのではありません。苦しみ悩みの中でも、主は私たちを生かしてください、今日を迎えました。主は救い、あわれみと赦しの神です。私は、この方に拠り頼む、と言えるでしょうか。

②種を蒔こう

危機の中にあって、不思議な主の御手に守られて生かされる経験は、主が生きておられることを実感できる時です。しかし、奇跡と不思議は私たちを怠惰にさせる者ではありません。あわれみの落ち穂から得た種を、信仰をもって蒔くようにと、主は挑戦を問われます。

③下に根を、上に実を

私たちは地上の現実には根を張って生き、かつ目を上げて天におられる神とのつながりを意識して、この方の御前に生きています。天と地の両方に広がり、両者をつなぐ役割です。弱く小さい者を用いて、大いなることを成し遂げることで、神の栄光が現われます。

<おわりに> このしるしはやがて現実となり、アッシリア軍は主の使いに倒され、撤退を余儀なくされ、センナケリブは息子の謀反に倒れます(36-38)。「万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」(32)と言われる主とこのことばに奮い立ち、主に祈り、自らの分をとらえ、果たしましょう(H.M.)